



おもてなしの気持ちで 迎えたい方は

日本、東京、小平を訪れる人を、おもてなしの気持ちや、やさしい日本語で迎え、ふれあってみませんか。市や小平市国際交流協会、こだいら観光まちづくり協会では、小平を訪れる人を温かく迎えられるよう、ボランティアの募集や「おもてなし」を学ぶ講座を開催します。

平櫛田中彫刻美術館 美術館ボランティア

平櫛田中彫刻美術館の案内や広報、催しの運営などを行うボランティアを募集しています。平櫛田中について学ぶ講習会があります。
活動日 不定期
※年3回、会議があります。
応募条件 16歳以上の健康な方で、車を利用しないで来館できる方
問合せ 平櫛田中彫刻美術館 ☎042(341)0098



小平市国際交流協会 通訳・翻訳ボランティア

小平市国際交流協会が主催する催しや説明会などに参加する外国人との通訳や、文書の翻訳をするボランティアを募集しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。
活動日 不定期
※1~2か月に1回程度、会議があります。
HP検索 小平市国際交流協会
問合せ 小平市国際交流協会 ☎042(342)4488

こだいら観光まちづくり協会 まち歩きガイド養成講座

ガイドになるためのこつや、小平の歴史、玉川上水や用水路について学び、自分でまち歩きのコースをつくりまします。小平の観光地、史跡、文化財などを案内するガイドを目指しませんか。詳しくは、お問い合わせください。
問合せ こだいら観光まちづくり協会 ☎042(312)3954



こだいら観光まちづくり協会 小平大好き おもてなしセミナー

小平を訪れる人に小平を好きになってもらい、楽しんでもらうために、自分でもできる「おもてなし」について考えてみませんか。お店での商品説明や道案内など、いろいろな場面での「おもてなし」のこつを学びます。
とき 2月16日(金) 午後6時~7時30分
ところ 西武信用金庫小平支店 (学園東町1-4-29)
対象 市内在住・在勤・在学の方
定員 100人
申込み 2月5日(月)までに、問合せ先へ
HP検索 フラットナビ 小平にこないか
問合せ こだいら観光まちづくり協会 ☎042(312)3954

「やさしい日本語」とは

ごみは分別して出してください。

↓

ごみを分ける決まりがあります。ごみは決まった日に出します。

↓

この用紙に記入してください。

↓

この紙に書きます。

気をつけるポイント

- ▶ ゆっくり、はっきりと話してください。
- ▶ 尊敬語、謙譲語は使わないようにします。
- ▶ なるべく一文を短くするように心がけてください。長い文は、いくつかの文に分けてください。
- ▶ 難しい言葉は避け、簡単な言葉で話してください。例えば、「飲料水」であれば「のみのみ」や「のむこと」ができる「みず」に言い換えてください。
- ▶ カタカナの外来語は、使わないようにしてください。
- ▶ 写真や絵で言葉を補うと内容がより伝わります。

詳しくは、「やさしい日本語」ホームページをご覧ください。

小平で実践した、やさしい日本語でのおもてなし
平櫛田中彫刻美術館「秋のお茶会」と小平ふるさと村「麦まき日待ち秋のまつり」で、やさしい日本語「おもてなし」を実践しました。外国人を案内する美術館ボランティアや小平ふるさと村の職員、案内を支援する小平市国際交流協会の通訳ボランティアは、催しの事前、やさしい日本語の学習会を行いました。ふだんの案内をできる「やさしい日本語」でを行い、案内の内容や話し方などについて意見交換をしました。

参加した外国人からは、「説明内容をすべてゆっくり話していた」「大きい声で簡単な言葉を使うから、とても聞きやすい」「説明の時は、日本語と英語が並べて書いてある紙もあってよかった」「外国人のために丁寧な言葉を省略し、言葉を短くしてくれた」「今度は友だちを連れて来たい」などの言葉が聞かれました。



やさしい日本語で 美術館ボランティアに携わって

▶ 初めて「やさしい日本語」で外国人の皆さんを案内しました。参加した人からとても満足したとか、もう一度平櫛田中彫刻美術館に来てみたいという声をいただき、本当にうれしいです。(木村さん：写真左)。

▷「やさしい日本語」を学んだことを踏まえて、なるべく一文を短くするように心がけたり、説明する項目をしぼったことも分かりやすかったという感想につながったと思います。(井田さん：写真中)。
▷美術館ボランティアをはじめ3年目になります。「やさしい日本語」を学んで、美術館を案内することがさらに楽しくなりました。多くの日本人、外国人の皆さんに平櫛田中彫刻美術館の良さを広めていきたいです。(渡部さん：写真右)。



HOST CITY

やさしい日本語で おもてなし

問合せ 文化スポーツ課 ☎042(346)9612

1

964年の東京大会から半世紀を経て、2年後、東京で再びオリンピック・パラリンピックが開催されます。

外国人旅行者は、友人宅に泊まる

東京2020大会が近づくとつれ、日本を訪れる外国人はさらに増える見込みです。

ところで、日本を訪れる外国人はどの様な場所に宿泊するのでしょうか。東京消防庁が平成28年に行った「外国人旅行者を対象とした意識調査」では、「ホテル、旅館」に次いで「友人、ボランティア宅」が第2位となっています。市内には大学も多く、留学生などの外国人も多く暮らしています。

今後日本を訪れる外国人が増え続けられ、小平市にも友人を訪ねて多くの外国人が訪れ、市内などで外国人とふれあう機会が増えるのでは無いでしょうか。

日本独自の「おもてなし」文化に注目

日本には「おもてなし」という、平安、室町時代の茶道から始まったといわれる独自の文化があります。お客さまや大切な人への気遣いや心を込めたおもてなしが、日本文化の大きな特徴です。



「やさしい日本語」で「おもてなし」をはじめませんか

一方で、日本を訪れる外国人を迎える際の課題に、言葉の壁があります。観光庁が平成28年に行った訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関するアンケートで旅行中に最も困ったことと回答したのは「施設などの社員・係員とコミュニケーションがとれないこと」でした。外国語といえは英語と聞いてあげて、市内には中国語・韓国語・ベトナム語・タガログ語など、英語を話さ



配りをする心が築かれた、世界に誇れる文化といえます。日本でのみんなの生活では気づきにくいかもしれませんが、海外や日本を訪れる外国人からは、日本の「おもてなし」は素晴らしいと評価されています。

「やさしい日本語」で「おもてなし」をはじめませんか。外国人が多く暮らしている。国際化が進む一方で、情報を得て訳すのは困難があります。その言葉の壁を解決する方法として、やさしい日本語が注目されています。

やさしい日本語は、難しい単語を使わないなど、外国人に分かりやすく工夫した日本語です。阪神・淡路大震災をきっかけに、災害時にコミュニケーションをとるために考え出されました。在住外国人や日本語を学んでいる外国人が、やさしい日本語の音を理解して、日本語が分からない外国人へ自分の母国語で伝える。また、やさしい日本語の会話は、通訳者が通訳しやすいため、災害時だけでなく、普段のコミュニケーションにも効果があるという注目をされ、全国に広がっています。

皆さんも外国人とふれあうときに「やさしい日本語」で「おもてなし」をはじめませんか。

